



押田 至 啓

奈良工業高等専門学校 専攻科長

本年で高専制度発足50周年の節目を迎え、『進化する高専』をキャッチフレーズに様々な記念事業が計画されています。奈良高専は昭和39年に設置され、再来年50周年を迎えることになります。高専は「深く専門の学芸を教授して、豊かな教養と職業に必要な能力を育成する」ことを目的とし、さらに、奈良高専では「創造の意欲」、「幅広い視野」、「自律と友愛」を教育理念として教育を行ってき、実践的な技術者を多く世に輩出してきました。その後の科学技術の発展はめざましいものがあり、より高い研究開発能力を持った技術者が必要とされてきました。そこで、「高専教育のアイデンティティを保持しながら、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する」ことを目的とし、平成4年4月1日に全国に先駆け本校に専攻科が設置されました。本校専攻科は教育方針として「より高く」、「より幅広く」、「より新しく」、「再び」を掲げ、より高度な研究開発能力を持ち、幅広い視野と新しい感覚を持った人材の養成を目指してきました。本校専攻科は、設置以来本年で丁度20周年を迎えました。この間、本科4年生から専攻科2年生までの4年間の教育については、「システム創成工学」教育プログラム（工学（融合複合・新領域）関連分野）として日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準を満たした教育プログラムの認定を受けました。

本校が設置された昭和39年といえば、本校創立半年後の10月1日に東海道新幹線が開業し、当時「夢の超特急

ひかり」と呼ばれた列車が走り始めた年でもありました。もはや「夢」ではなく現実利用するものとして「ひかり」が目の前に現れてきました。さらにこの頃から、多くの新しいものが生み出され新しい科学技術を導入した「ものづくり」が行われてきました。また、本校に専攻科が設置された平成4年には、新幹線に「のぞみ」が走り始め、「夢」から「のぞみ」へ新たな高速化が進展しました。社会の要請も、実現すればいいなという「夢」から、実現させたい「のぞみ」へと変わってきたのではないのでしょうか。その後、技術革新に伴い多くの新規技術が導入され、新幹線は世界にも類を見ない安全な鉄道として、どんどん進化が続いています。しかし、これはレールの上をトローリー線から電力の供給を受けながら安全に走行し、確実に停止するという電車としての基礎技術の上に成り立っています。基本となる基礎技術が確立されていなければ現実のものとはならなかったでしょう。確固たる基礎技術と画期的な技術が相俟って大きな進化が得られてきました。

ところで、学生の皆さんの多くは入学してきたときに「夢」や「のぞみ」を持っていたことと思います。いま、高専生となって入学時のあるいはその後に抱いた「夢」や「のぞみ」を持ち続けていますか。将来にこれらを実現するためには確かな基礎となる力が必要です。論語の一節にも「君子務本、本立而道生」〔君子は本（もと）を務む、本立ちて道生ず〕とあるように根本、基礎を固めることが大事になります。確かな基礎となる力は、もちろん専門的な能力、知識のみではなく、社会的な常識やコミュニケーション能力等も含まれます。これらの力の上に皆さんの独創的な発想が加味され、「夢」や「のぞみ」が現実のものに近づいてきます。

これからもぜひ、「夢」を持ち、「のぞみ」を抱き続けて下さい。そして、「夢」を実現し、「のぞみ」をかなえるべく努力をして下さい。そのためにも、基盤となる基礎力を十分に身につける必要があります。さらにその上に能力を高めていくことになります。学習面、学生生活等におけるそのためのシステムを奈良高専は構築し続けてきました。このシステムを有効に使うか否かは学生の皆さんの判断に委ねられています。今の、多くのものを吸収することができる学生時代に、基礎的な力を十分に身につけて下さい。さらに、高度なものを吸収し、挑戦できる力を身につけて下さい。

将来に「夢」を描き、「のぞみ」を抱き、これを現実のものとして実現するよう前進していきましょう。この世界の将来の「夢」と「のぞみ」は皆さんの手に委ねられています。